

創る・踊る・観る現代舞踊学びの発表会と対話的鑑賞

岡山県現代舞踊連盟

活動の目的

現代舞踊はその特質ゆえ、一般的に難解と思われており、また岡山においてその表現の自由さや面白さを学ぶ（体験する）場が少ないという現状がある。昨年行ったまなびの発表会ではアドバイザーからのアドバイスや観客からのメッセージは踊る側のみならず観る側の指針となりさらに質の高い取り組みにつなげたいという成果と課題があった。よってこの会は現代舞踊の発表の場であるだけでなく、創る・踊る・観るという三者の視点からの学びの機会とすることを目的とした。

創る者・踊る者は様々な分野からのコメントーターの指導を受けることで表現性やスキルの向上を目指し、鑑賞者はアドバイスや作品のテーマなどのやり取りを聞くことで現代舞踊の味わい方を感じ、さらに「対話的鑑賞法」によって新しい現代舞踊鑑賞のしかたに触れることを目的とした。人との関りの大切さや豊かに生きるということの価値を現代舞踊を通して考える場となるよう企画した。

活動の内容及び経過

今年は新型コロナ感染症の拡大により、ワークショップの開催中止、日程や講師、内容に大幅な変更をせざるをえなくなったが、十分な新型コロナ対策を行い、開催することができた。

9月 参加者及び発表作品の募集。ジュニアからシニアまで12作品の参加があった。

11月22日 百花プラザにて作品発表と作品鑑賞の2部構成で行った。

作品発表の部では照明付きの舞台発表を行い、県内在住の舞踊家・ダンサー・ダンス教育者といった現代舞踊の専門家であるアドバイザーから直接各参加者に10分程度の指導があった。指導やアドバイスの様子も公開とした、出演者は互いの作品も鑑賞した。

作品鑑賞の部では東京在住、2019年埼玉舞踊コンクール金賞の田中朝子氏のダンス作品をビデオ鑑賞し、「対話的鑑賞法」のファシリテーターとして定評のある森弥生氏の導きにより、会場の参加者は印象を言語化し森氏が再構築することで鑑賞が深まった。

それぞれの視点や感想の言葉に刺激を受け、意見の違いを感じながら作品の観方を深めることができた。

活動の成果・効果

昨年度に比べて、男性や大学生など出品数、参加者も増え参加層が広がった。コロナ禍にありながら、照明施設のある本格的な舞台での作品発表ができたことは実に貴重な経験であった。出演者数17名、来場者は32人と決して多いとは言えないが、楽屋やリハーサル室の密、感染予防対策などを考えれば限界かもしれない。計画的なコロナ対策を行い、観客に安心を与えることができた。

客観的な視点からの指導を受けた出演者は舞踊技術の向上を誓ったり、作品解釈へ目を向けるきっかけになったとアンケート



対話的鑑賞の様子



アドバイスを受ける様子



作品発表「迷いのち、芽生え」



作品発表「子ねこのダンス」

で答えている。アドバイザーとのやり取りは自らの表現活動を一層深める貴重な経験となったようだ。

「対話的鑑賞法」では会場の全員が能動的に参加し、1つの作品に対して様々な感想や意見を出すことができた。感じたことを言語化したり、他の人の意見を聞いて自分の想像が膨らんだり、様々な観点からの鑑賞ができるという経験をし、現代舞踊の表現の豊かさを実感した。また対話的鑑賞法を体験したいという声があった。

プロの現代舞踊作品にも触れることができた。

今後の課題と問題点

- ・新型コロナ感染症拡大の影響もあり出演者・観客が予定より少なかったのはいたしかたないが今後参加者を増やす工夫が必要である。
- ・多くの方に参加してもらうよう鑑賞者や発表者にできるだけ経済的負担を軽くした。舞台を企画・運営するうえで経費が多くかかり、本格的な舞台に立っていただく場を運営するのは大変難しい。特にコロナ対策の費用もかさんだ。
- ・対話的鑑賞法によるダンス鑑賞における言語化は観る側も踊る側も興味深い活動であり、創作する際のヒントがあると考えられるため継続して学びを深めたい。
- ・今回はビデオ鑑賞であったが、国内外の優れた舞踊家やその作品に触れる機会を作りたい。

- 代表者：間野和美
- E-MAIL：kkkks634@ybb.ne.jp
- URL：https://www.facebook.com/genbuokayama/
- 設立年：2002年 ●メンバー数：1団体と10名